

### ③ 気腹圧による出血の軽減

腹腔鏡手術では、お腹の中に二酸化炭素を入れて、お腹を膨らませながら手術を行います。これにより常に腹圧がかかっている状態で手術をするため、肝臓からの(特に圧の低い静脈からの)出血を減らすことができます。実際、当科でも腹腔鏡手術においては開腹手術以上に少ない出血量で手術を終えることがほとんどです。

### ④ 癒着の軽減

肝切除の対象となる肝細胞癌や転移性肝癌は、繰り返し肝切除を必要とすることが多い病気です。腹腔鏡手術は開腹手術と比較して術後の癒着が軽減されるため、2 度目、3 度目の手術の際に有利に働きます。

## デメリット

#### ① 技術的問題・動作制限；

腹腔鏡手術では、お腹に開けた穴を通して直線的に器具が挿入され、手のように自由自在に動かせるものではないので、動作制限があります。開腹手術でさえ難しいとされる肝切除を腹腔鏡で行うには、開腹肝切除術の十分な経験とともに、腹腔鏡手術の高度な技術が必要となります。

#### ② 触覚の低下；

腹腔鏡手術は直接手で触れて手術を行うことができないため、手の繊細な触覚は失われてしまいます。触覚の低下を良好な視野で補いながら手術を進めていきます。

#### ③ 俯瞰的な視野の欠如；

腹腔鏡は拡大視野には適していますが、全体を俯瞰的にみるのは時に困難で死角が生じ観察が十分でない場合があります。

#### ④ 手術時間の延長；

特に大きな肝切除、複雑な肝切除においては、開腹手術に比べると手術時間が長くなる可能性があります。しかし、手術部位によっては短い時間で手術を終えることができる場合もあります。

上記のようなメリットとデメリットを踏まえ、安全に手術ができるか根治性が損なわれないかを十分に考慮し、腹腔鏡手術の適応を判断します。正しい適応のもとに腹腔鏡手術が行われれば、肝臓は腹腔鏡手術のメリットが非常に大きい手術と考えています。

## まとめ

患者さんの病態に応じて最適な治療を行うための一つの選択肢として腹腔鏡手術は非常に有用です。安全性と根治性を同時に考え、患者さんにできるだけ負担のかからない優しい手術を提供していきたいと思えます。当科では腹腔鏡下肝切除で認定された内視鏡外科学会技術認定医が 3 名おりますので、消化器外科・移植外科外来までお気軽にご相談ください。

**みどりの丘** 緑の「術」が見つめる医療

第 253 号 2022 年 7 月 1 日発行

